

2025年度 第2回須坂市健康づくり推進協議会 会議録（要旨）

1 開催日時

2026年1月28日（水） 開会：午後1時30分 閉会：午後2時50分

2 会議の場所

須坂市役所東庁舎2階 第三委員会室

3 出席した者（13名）

五明 広樹 委員	入澤 栄司 委員	松澤 正浩 委員	橋本 正紀 委員
松本 徹也 委員	湯本 剛文 委員	廣田 光彦 委員	樋口 義宏 委員
永田 繁江 委員	中澤 秀樹 委員	竹内 敬昌 委員	塚田 昌大 委員
佐藤 優子 委員			

4 欠席した者（2名）

宮下 大輔 委員 高橋 美奈子 委員

5 事務局出席職員（13名）

荻原 健康福祉部長  
長田 健康づくり課長兼地域医療福祉ネットワーク推進室長  
市川 医療保険課長  
関野 高齢者福祉課長兼地域包括支援センター所長  
健康づくり課：山本 保健予防係長  
鈴木 健康支援係長  
大峽 母子支援係長 赤沼 母子支援係担当係長  
今西 保健予防係主査 徳繁 保健予防係主査

6 傍聴者 0名

7 配布資料

（1）資料1 第3期 須坂市母子保健計画

- ・輝く未来のために 親子で健康について考えよう 小学5年生版
- ・輝く未来のために！自分の健康を振り返ってみよう 中学生版
- ・早ね 早おき 朝ごはん ～元気に育つ すずかっ子～

8 部長及び協議会長あいさつ

9 改選委員の紹介（事務局から1名を紹介）

廣田 光彦 委員

10 協議事項

（1）第3期 須坂市母子保健計画について

資料に基づき事務局から説明を行った。

これに対し、委員から次のような意見・質問が出された。（別紙議事録参照）

※事業計画（案）について承認された。

（2）その他

事務局・委員からの連絡事項等は無かった。

11 その他

事務局・委員からの連絡事項等は無かった。

12 御礼（部長あいさつ）

13 閉会

## 議事録（質疑）

## ○協議事項（1）第3期須坂市母子保健計画について

（事務局）当該計画について説明

（A委員）3歳くらいまでは、仕上げ磨きをする人、親だけが磨いているという人が多く、虫歯の対策が結構できていてよいが、12歳になると歯肉炎が増えてきており、中学生くらいになるとちゃんと歯磨きしていないということになる。

虫歯を一本治すのに10万円、神経を抜いてしまうと、後々ぐらついてきたりインプラントになったりすると30万円くらい必要になる。時間の労力と費用の労力がかなり大変という認識をしているが、中学生くらいにもタイムパフォーマンスとか費用の問題を、歯科医師会とか関係して周知できれば、認識してもらえないかと思う。中学生に歯を磨いてもらうには何かないか。

（B委員）3歳くらいまでは仕上げ磨きをしている方が多いので高い数値（P26 図表5）だが、これが小学校にあがると急激に下がる。あなた磨いときなさいと子どもに任せてしまう。そのところまで数字的に追った方が（指標の）信憑性はもっとよくなる。

だいたい小学校1・2年生くらいで6歳臼歯に小さい虫歯ができてきて、歯医者で削って充填して、一生詰め物っていうそういう人生が始まる。そのところをなにかしら予防的な処置ができれば虫歯は減る。中学生くらいは、まあみんな磨かなくて歯茎が腫れている。高校生くらいになるとお年頃になってきて一生懸命磨くが、その頃になるともう遅い子も中にはいる。なので中学生くらいでよく磨けていればいいかなと思うが、学校に出かけて行って歯ブラシ指導するののかということになると、非常な手間と労力と人材とが必要になってくるので、今のところは養護教諭の先生に指導する程度の内容になってしまうのかなと思う。

もう一点気になったのは、妊産婦の歯科検診、3割くらいという数値があるが（P20 図表9）、その3割の人たちというのは、元々口腔への関心が高く、かかりつけの歯医者も決まっているような、ほとんど健診する意味がないような人ばかりで、あと7割の関心のない人たちにいかに口腔環境が大切かというのを啓発することが重要になってくる。病気がない人、関心がない人は歯医者には来ないので、歯医者では啓発運動できない。行政の方のマタニティサークルのようところで頑張ってもらえないかと思う。

（C委員）親が仕上げ磨きをするというのは何歳くらいまで継続するのが好ましいか。おそらく一般的に3歳くらいでいいのではないかと思っている方が多いので、こういう結果になる。例えば、就学前までは、絶対やったほうがいいのかあれば、そういう警報を市のほうで一生懸命やっていただくというのが重要になるのではないか。

（B委員）中学生になってくると第二大臼歯が生えてくる。知らず知らずのうちに一番奥に大白歯がもう一本生えてくる。遅い子に至っては中学校の後半に生えてくる子もいる。その歯が生え変わるステージっていうのを親が知っていてアドバイスしてあげるのが重要になってくる。奥の方からみんな虫歯になってしまう子もいるので、そういう歯科啓発運動みたいなものも必要になってくる。手伝う必要はないが、声をかけるとかがよい。あと子どもに任せちゃうと絶対ダメ、親と子が一緒に歯ブラシをするっていう習慣をつけてもらいたい。なんで私だけ歯ブラシしなきゃいけないの、となると磨かなくなって

しまう。なので、大人も磨いているからあなたもやるのよってというそういうような習慣も盛り込んでいただきたいかなと思う。

(C委員) そういう具体的なものを計画に盛り込んでもらいたい。

(A委員) 悪化の項目の育てにくさを感じた時に対処できる親の割合 (P11) に対して、おひさま専用電話利用の件数 (P45) が23年くらいから増えているが、これに関して市の方で何か計画はあるか。

(事務局) おひさま専用電話が、乳幼児、幼児の割合が多くなっていて、内容とすると離乳食の相談や、育児の相談が多い。最近だとインスタ映えする離乳食を作らなければというようにハードルが高くなっていてお母さんもいて、今の自分のお子さんの状況とか自分の生活の中で少しずつステップアップしていったというよりは、そういう情報に寄せていかなくちゃというところで、なかなかそれを継続できなくて苦しんじゃうという方もいらっしゃる。そういう方は栄養士の方で入らせていただいて、その方たちの食生活も気にしながら、そこから取り分ける方法とか、種類を増やす方法とか、少しずつアドバイスしながら継続して支援をしている方が多くなってきている。そういった様子をお聞きしながら、どのようなところにつまづきや、育てにくさを感じているかというところをお聞きしながら支援していくことを継続していきたい。

(A委員) 若いころから将来を見据えて考えていくというプレコンセプションケアという考え方について、市から具体的にどのように実施していくのか説明をいただきたい

(事務局) プレコンセプションケアは、思春期の頃からという考え方があるが、私たちに何ができるかと考えると、乳幼児健診で関わる乳幼児期から、そういった肥満や痩せについて、支援をして、妊娠出産に向けての大人になった時の健康について考えてもらう。小さい時から健康管理に取り組む意識を持ってもらいたいという思いを、関係する方たちと共有しながら、実際にお子さんだったり、学生だったり、大人になっていく過程の皆さんが意識して、健康に目を向けて実践してもらいたいというところを目指して色んな施策をしていきたい。

(A委員) その資料がこれか (別添資料「輝く未来のために 親子で健康について考えよう」、「輝く未来のために！自分の健康を振り返ってみよう」)

(事務局) 学童期のところとすると、生活習慣病健診を行っている小学5年生ですとか中学2年生の結果を返す時にこういったリーフレットをお渡ししている。学童期、思春期の皆さんに将来の健康づくりに通じているんだよと見てもらえればと思う。

(A委員) いい資料だと思う。これは実際に養護教諭が読み聞かせているのか。

(事務局) やり方は学校によって違う。資料を作る時は、必ず養護教諭の方からご意見をいただき作成しているが、学校で配布する際は、健診結果をお返しする時に一緒に話しながら配っているという学校もあれば、配布のみというところもあるので、またそのあたりを共有しながら有効的に活用できたらと思う。

(D委員) プレコンセプションケアを広くとらえすぎていて、逆に本質的な部分が伝わりづらくなっている。P41にあるように、基本コンセプトとしては、女性が妊娠出産というのをし

っかりライフデザインを描く中で、健やかにお子さんを産んで自分たちも健康でいる、何で自分たちの健康を守らなければならないかという視点が、そもそものプレコンセプションケアの概念であるが、そういう観点から、低出生体重児が多い状況の中で、痩せの問題だとかというところを妊娠に向けて、しっかり気を付けていこうというところが狭い意味でのプレコンセプションケアなので、まずこれを通じて低出生体重児を少なくする。あるいは、健やかなお子さんを増やしていくというような観点にしっかり位置づけを明確にした上で、広くもっていくという二段構えにしないと、なかなか本来の意味が伝わっていかないのかなと思う。狭義の妊娠出産に向けてのプレコンセプションケアに関しては、一番大事なのは妊娠を意識する女性に向けてのメッセージをどう伝えていくのかということであり、第一段階としては、思春期における健康教育である。その思春期に、高校の県教諭も含め、健康教育をやろうという形になっているが、そこでまた途絶えてしまって、特に成人になってから妊娠を意識するような年齢になった時に、どうやってこのメッセージを伝えていくかということが、実はプレコンセプションケアの一番重要なところという風に言われている。働き盛りの女性に向けてどうメッセージをするかというのが地域保健の非常に弱い部分でもあるが、実はここが重要なのでこういったメッセージも含めて、本当に必要なところにメッセージをやることによって次の世代に向けての健康のメッセージになっていく。広い意味と狭い意味というのをしっかり使い分けて考えていってあげていただきたい。

(E委員) 第2期の改善した点(P10、11)について、この地域で子育てをしたいと思う親の割合は、97.5%ほどと非常に改善したと思う一方で、育てにくさを感じた時に対処できる親の割合が少ないということは、市として住んでみたいんだけど、それに対する助言はできているのか、どこに相談したらいいのかという意見なのかと、感じる。とすると、地域づくりのところ(P15)で、取組み実績と成果がすべて、～を実施したと断言しているが、悩み苦しんでいる人たちがいるなかで、こういう書き方であれば何か改善した部分はあるということか。また第3期の計画では、これらを踏まえてこういうかたちのものを推進したいという考えがあればお答えいただきたい。

(事務局) 情報提供に関しては、すまいるナビ等、色んな場面で周知しているが、育てにくさを感じた方たちに情報を受け取っていただけたかということまでは、分析が出来てはいない。問診票の中に育てにくさを感じたというのを書いていただくが、相談できているという方は、保健センターや保育士、子育て支援センターとか、その方が相談しやすいという場所に、相談しているということは把握できているが、育てにくさを感じている方たちは、相談できる場所がないというか、理由とすると家族関係に悩んでいて家族に相談したくないとか、私たちの答えてほしいとらえ方と違う回答を書いていただく方もいらっしゃるの、そういう方たちが相談に繋がっているのかや、情報を知っていたのかということまで落とし込んで、聞き取りしていかなければいけないと思っている。せっかく問診票書いてご回答いただいているので、そこでしっかりと話しし、知らない方にはその場面でお伝えしたり、色んな方に届くようにお伝えする必要はあるかなと思う。

- (A委員) 1歳6か月健診等の問診票に困った時に相談できていますかという項目があり、それを見て対応していると。聞くだけなのか。
- (事務局) そこで相談先がないとなっていれば、保健師の方で必ずお話しはさせていただいているはずだが、今回評価するにあたって過去の問診票を見ると、そこまで書いていないので実際がわからない。こういう問診票をとっている以上、お伝えしていくこと、どういった状況なのかという聞き取りはしっかりしていかなければと思う。
- (E委員) せっかくこの地域で子育てをしたいという親御さんが多いのであれば、市民48,000人程と50,000人を割っているところもありますので、何か特性を持って、須坂市に行けば子育ても非常にいいんだと外部からも人が来てもらえるようにやってもらえたらいいと思う。
- (F委員) 学校や保育園とは連携と書かれていますが、そういうことであればこそ、この委員の名簿に教育委員会や養護教諭がいれば、実情を聞いて論点が進んでいくのではないかと、具体的に教育を進めるのは学校や保育園であれば委員にいるほうがよい。
- (A委員) ご検討をお願いします。

以上